

先端科学技術研究科 修士論文要旨

| | | | |
|---|----------------------------|-----|--------------|
| 所属研究室 (主指導教員) | 知能コミュニケーション (中村 哲 (教授)) | | |
| 学籍番号 | 2111074 | 提出日 | 令和 5年 1月 18日 |
| 学生氏名 | 加賀見 彰吾 | | |
| 論文題目 | 様々な言語表現に対応可能な質問生成システム | | |
| 要旨 | | | |
| <p>質問生成とは入力された文章に対して質問を生成する手法であり、用途は入力文に記載されてあることに対する質問生成や記載されていないことに対する質問生成など様々である。質問生成の研究の分野は幅広いが、入力された内容を詳しく理解しようとするのが根幹にある。現代の自然言語処理技術の発展は目まぐるしいものがあり、新しいモデルやアプリケーションの開発が次々と進み我々の日常生活を発展させているが、専門的な用途に用い得る技術の開発はなかなか困難であるのが現状である。例えば論文やプレゼンテーションのスライド、スピーチ内容に対して質問生成を行うといった技術は専門用語の把握や音声認識技術との兼ね合い、適切な文脈理解による質問の意図特定等が問題となり、方法を一意に定めることが出来なかったり、未解決の問題があるためにその先の段階へ進むことが出来ないという事態に陥っている。そこで本研究はこれらの問題の足掛かりとして文章中の様々な言語表現に対して適切な表現で質問生成を行うことを目的とした。文章中には過去形や否定表現、受動態等の言語表現が含まれており、これらの表現が含まれている文章に対して質問生成を行う際には適宜その言語表現に沿う形式で質問を行う必要がある。そのため格フレーム辞書を用いた質問生成という先行研究を参考とし、この研究における質問生成テンプレートを拡張することにより様々な言語表現に対応出来るようにした。その後現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)の書き言葉コーパスの新聞テキストに対して質問生成を行い、先行研究との比較と提案手法の精度の評価を行った。</p> | | | |